

平成26年度事業報告書

| | |
|------------------------------------|---|
| I 事業の実施概要 | 1 |
| (1) 助成事業 | 1 |
| (2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～ | 2 |
| (3) 国際交流活動 | 4 |
| (4) 制作者フォーラムの開催 | 4 |
| (5) 設立40周年記念事業 | 5 |
| (6) 定期刊行物の刊行等 | 5 |
| (7) ホームページの運営 | 6 |
| (8) 個人情報の保護 | 6 |
| (9) 資産運用検討委員会 | 6 |
| II 処務の概要 | 7 |
| (1) 役員、評議員等に関する事項 | 7 |
| (2) 理事会および評議員会に関する事項 | 8 |
| III 付属明細書（資料1～4） | 9 |

平成26年度事業報告書

I 事業の実施概要

放送は、完全デジタル化に続く4K、8Kへの取り組みや放送と通信の連携・融合の急速な進展など大きな変革の時期を迎えている。

この様な中で放送文化基金は、放送文化の発展・向上に寄与すべく、助成事業、表彰事業、制作者支援活動事業の3本柱に40周年記念事業を加え、計画した事業を全て実施した。

助成事業では研究者の裾野拡大のための若手研究者等への助成金の増額、放送文化基金賞は番組の表彰名を判りやすく変更するとともに賞金を増額、制作者フォーラムは4地区開催と全国フォーラムの実施、設立40周年記念事業ではホームページの全面リニューアルや放送文化基金賞等の事業のweb化、記念の会開催などの事業を重点的、効果的に実施した。

(1) 助成事業

ア 平成26年度助成

平成26年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の2分野を対象に公募を行った結果107件の申請があり、助成審査委員会の審査を経て、理事会で46件、5,982万円の助成を決定した。

(助成対象一覧 資料1)

申請および採択結果は、次の通りである。

(単位 万円)

| 区 分 | 申 請 | | 採 択 | |
|---------|-----|--------|-----|-------|
| | 件 数 | 金 額 | 件 数 | 金 額 |
| 技術開発 | 31 | 7,179 | 12 | 2,682 |
| 人文社会・文化 | 76 | 10,146 | 34 | 3,300 |
| 合 計 | 107 | 17,325 | 46 | 5,982 |

助成金は、若手研究者奨励500万円を増額し、募集段階で申請を呼びかけた結果、大学院生や非常勤講師など若手研究者からの応募が増加した。

助成金贈呈式は、平成27年3月6日に研究報告会、目録贈呈式、懇親会の3部構成で実施した。

第1部の「研究報告会 2015」は、技術開発部門より工学院大学工学部教授の前田幹夫さんから『放送素材信号の水中光伝送に関する技術開発』について、人文社会・文化部門より大阪大学大学院教授の鈴木秀美さんから、『ドイツの新しい受信料制度』についての報告があった。

研究報告会、贈呈式の参加者は、放送関係者、研究者など延べ140名で、報告後の質疑応答では活発な意見交換が行われた。

イ 平成24年度助成事業の実施報告

平成26年10月～11月に開催した其々の審査委員会で、平成24年度に助成した技術開発11件、人文社会・文化31件の実施報告（成果報告・26年6月末締切）について、一件ずつ内容の評価を行った。

(2) 表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア 第40回放送文化基金賞

平成25年度中に放送された、優れた放送番組（番組部門）と、主にもその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、平成26年4月～5月に開かれた各部門、各分野の専門委員会と審査委員会を経たのち、理事会で合わせて27件を決定した。

（受賞一覧 資料2）

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

| 部 門 | 領 域 | 応募・推薦数 | 表彰数 | 備 考 |
|-----------|---------------|--------|-----------|-----------------|
| 番組部門 | テレビドキュメンタリー | 89 | 5 | 最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞3 |
| | テレビドラマ | 54 | 4 | 最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2 |
| | テレビエンターテインメント | 68 | 3 | 最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞1 |
| | ラジオ | 40 | 3 | 最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞1 |
| | 個別分野 | — | 5 | 番組部門受賞作品から選定 |
| 個人・グループ部門 | 放送文化 | 13 | 3 | — |
| | 放送技術 | 12 | 3 特別賞1 | — |
| 合 計 | | 276 | 27 | |

番組部門の最優秀賞の賞金100万円、優秀賞50万円、各奨励賞30万円
個別分野賞20万円。 また、個人・グループ部門の賞金は30万円。

最優秀賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では、『E T V特集 三池を抱きしめる女たち～戦後最大の炭鉱事故から50年～』（NHK

福岡放送局、NHK熊本放送局)、テレビドラマ番組、『テレビ朝日開局55周年記念 山田太一ドラマスペシャル「時は立ちどまらない」』(テレビ朝日)、テレビエンターテインメント番組、『NHKスペシャル 足元の小宇宙 生命を見つめる植物写真家』(NHK)、ラジオ番組、『In My Life～介護の仕事とビートルズと』(北日本放送)である。

個人・グループ部門では、放送文化で3件の制作グループやプロジェクト、放送技術で3件の開発グループ・個人が受賞した。また、ラウドネス導入プロジェクト(日本民間放送連盟、NHK、電波産業会)が特別賞を受賞した。

基金賞の贈呈式は、6月25日に千代田放送会館で、その後、懇親パーティーをホテル・ルポール麹町で行った。

イ 他の賞への参加

ABU(アジア太平洋放送連合)番組コンクール、第41回日本賞教育コンテンツ国際コンクール、創作ドラマ大賞に参加した。

このうち、ABU番組コンクールでは、ラジオとテレビのドラマ番組の、『FMシアター 金魚の恋、五十五年の夢』NHK/日本、『Redfern Now, Babe in Arms(Series2)』ABCオーストラリア放送協会/オーストラリアにそれぞれ賞を贈呈した。ABU賞授賞式は平成26年10月27日にマカオで行われ、各分野の15番組と、技術分野の個人・グループなどに賞が贈られた。

・日本賞は、平成26年10月21日授賞式が行なわれ「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『ミーアキャットの冒険』(ナミビア放送協会(NBC)/ナミビア、グリニス・ビアケス・カパ氏)に対して放送文化基金賞を贈呈した。

なお、第40回(平成25年)の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞したスリランカ放送協会の『通学路は大自然』(スリランカ)は、番組として完成し、第41回日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

・日本放送作家協会が主催する創作ドラマ大賞について、第39回創作テレビドラマ大賞の贈呈式が平成26年11月4日に行われ、大賞に選ばれた『川瀬(かわうそ)』(山下 真和 氏)に賞金50万円を贈呈した。

なお、第43回創作ラジオドラマ大賞の贈呈式は平成27年3月23日に行われたが、今回大賞は「該当作なし」であった。(表彰結果 資料3)

(3) 国際交流活動

ABU（アジア太平洋放送連合）の第51回年次総会が、平成26年10月27日～28日まで中国・マカオで開かれ、65の国、地域から600人余りが参加した。基金からは崎元専務理事が出席した。

今回は、これからの放送の在り方を大きなテーマにして議論が行われ、参加している放送局の関係者などから「急速に普及しているインターネットの活用はどう取り組んでいくか」などについて熱のこもった意見交換が行われた。

また、総会では新しい執行部が選出され、会長には韓国KBSの曹大鉉（チョ・デヒョン）社長、副会長にはNHKの堂元光副会長などが選出された。

(4) 制作者フォーラムの開催

ア 制作者フォーラム

NHK、民放、制作プロダクションなど、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に開催しており、平成26年度は4地区で現地実行委員会と共催した。

内容は、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画によるシンポジウムや講演会が行われた。

○北日本制作者フォーラム in あきた（北海道・東北地区）

＜北海道、東北の民放とNHK、計40局＞

日 時 平成26年11月29日（土）、30日（日）

場 所 にぎわい交流館AU／秋田市

参加者 約100名

○北信越制作者フォーラム in ながの（北陸・長野、新潟地区）

＜北陸、長野、新潟の民放とNHK、計22局＞

日 時 平成26年11月15日（土）

場 所 NBSホール・長野放送内／長野市

参加者 約50名

○中四国制作者フォーラム in まつやま（中国・四国地区）

＜中国、四国の民放とNHK、計32局＞

日 時 平成26年12月6日（土）

場 所 テレビ愛媛7Fホール／松山市

参加者 約60名

○九州放送映像祭&制作者フォーラム（九州・沖縄地区）

＜九州、沖縄の民放とNHK、計35局＞

日 時 平成26年11月22日（土）

場 所 NHK福岡放送局よかビジョンホール／福岡市

参加者 約70名

イ 全国制作者フォーラム2015

4地区のミニ番組コンテスト受賞者を招き、全国の制作者、放送関係者などにも参加を呼びかけ開催した。

日 時 平成27年2月20日（金）

場 所 ホテルルポール麹町2F「ルビー」／東京都

参加者 約60名

○第1部 制作者フォーラム4地区のミニ番組優秀作品視聴

○第2部

・番組を見る会・語る会

『ケンボー先生と山田先生～辞書に人生を捧げた二人の男～』

制作者：佐々木健一氏 聞き手：丹羽美之氏

・パネルディスカッション

「テレビの可能性に挑む～越境する制作者たち」

パネリスト：阿武野勝彦氏（東海テレビ放送プロデューサー）

佐々木健一氏（NHK エデュケーショナルプロデューサー）

松原耕二氏（BS-TBS スペシャル・コレスポンデント）

コーディネーター：丹羽美之氏（東京大学大学院准教授）

（5）設立40周年記念事業

ホームページの全面リニューアルを行ない、平成27年2月1日にオープンした。主な変更点は、画面の操作性の向上を図るため、シンプルで使いやすさを重視したデザインを採用し、モバイル対応や事務局でも更新作業ができるCMS（コンテンツマネジメントシステム）などを導入した。

事業システムのweb化では、放送文化基金賞のデータベース化と合わせ名簿管理システムの構築を行ない、平成27年度から運用を開始する。

（6）定期刊行物の刊行等

平成26年9月に放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載した広報誌「放送文化基金報」No.81を40周年記念特集号（Ⅱ）として刊行。平成27年4月に助成対象プロジェクトの研究内容の紹介、全国制作者フ

フォーラムの開催などを中心とした No. 82 を刊行した。

(7) ホームページの運営

事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開に努めた。

<日本語版内容>

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞 WEB 申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿／基金の活動を親しみやすい形で紹介する読み物（読む・楽しむ）等

<英語版内容>

助成の募集案内、日本賞・ABU賞への参加について 等

(8) 個人情報の保護

基金の保有する個人情報保護のため、安全管理対策や問い合わせ窓口の設置などを定めた個人情報保護方針および安全管理規程を策定し、個人情報保護方針をホームページで公開している。

(9) 資産運用検討委員会

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており平成26年9月と平成27年1月に開催した。

イ 主なテーマ

- ・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し
- ・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

青木 昭憲 (大和住銀投信投資顧問(株)法人部長)
柿沼 点 (大和住銀投信投資顧問(株)チーフエコノミスト)
森 幸嗣 (大和住銀投信投資顧問(株)債券運用グループリーダー)
松原 克美 (放送文化基金会計顧問・公認会計士)
清水 孝雄 (放送文化基金監事・TBS 社友)
竹村 範之 (放送文化基金監事・NHK経営企画局長)

(幹事)

崎元 利樹 (放送文化基金専務理事)

II 処務の概要

(1) 役員、評議員等に関する事項

ア 監事の選任等

第10回評議員会（平成26年6月13日）において、監事を選任した。

竹村 範之 氏（日本放送協会 経営企画局長）
（任期 平成26年6月13日から27年6月の定時評議員会まで）

なお、根本 佳則氏は、平成27年6月12日付で退任。

イ 評議員の選任等

(ア) 第10回評議員会（平成26年6月13日）において、新たに3人の評議員を選任した。

靱井 勝人 氏（日本放送協会 会長）
上田 良一 氏（日本放送協会 経営委員）
板野 裕爾 氏（日本放送協会 専務理事・放送総局長）
（任期 平成26年6月13日から27年6月の定時評議員会まで）

なお、藤村 志保氏は、平成26年4月2日付、石田 研一氏は平成26年6月12日付で退任。

(イ) 第11回評議員会（平成26年12月4日）において、評議員を選任した。

青木 隆典 氏（日本民間放送連盟 常務理事）
（任期 平成26年12月5日から27年6月の定時評議員会まで）

なお、木村 信哉氏は、平成26年12月4日付で退任。

ウ 審査委員の委嘱

(ア) 第19回理事会（平成26年7月4日）において、審査委員会委員を次のとおり委嘱した。

助成審査委員会委員（技術開発）
浜田 泰人 氏（日本放送協会 理事・技師長）
（任期 平成26年7月4日から28年3月31日まで）

なお、久保田 啓一委員は、平成26年7月3日付で退任。

(イ) 第21回理事会(平成26年12月4日)において、審査委員会委員を次のとおり委嘱した。

助成審査委員会委員(技術開発)

伊東 晋 氏(東京理科大学教授)

(任期 平成26年12月5日から28年3月31日まで)

なお、羽鳥 光俊委員は、平成26年12月4日付で退任。

(ウ) 第22回理事会(平成27年2月13日)において、審査委員会委員を次のとおり委嘱した。

放送文化基金賞審査委員

羽鳥 光俊 氏(東京大学名誉教授)

(任期 平成27年2月14日から28年3月31日まで)

なお、長谷川 豊明委員は、平成27年2月13日付で退任。

以上の結果、平成27年3月31日現在の役員、評議員、審査委員は、資料のとおりである。(役員、評議員、審査委員一覧 資料4)

(2) 理事会および評議員会に関する事項

ア 理事会

| 開催年月日 | 主 な 議 案 |
|-----------------------|---|
| 平成26. 5. 30 (第18回) | <ul style="list-style-type: none">平成25年度事業報告および決算について評議員候補者の推薦について役員候補者の推薦について第40回「放送文化基金賞」表彰対象について平成26年度助成要項について評議員・役員の退任について |
| 平成26. 7. 4 (第19回) | <ul style="list-style-type: none">審査委員の委嘱について技術開発審査委員会専門委員の委嘱について「設立40周年記念の会」実施について |

| | |
|--------------------------|---|
| 平成 26. 10. 3 (第 20 回) | <ul style="list-style-type: none"> 第 11 回評議員会の開催について 平成 26 年度事業活動収支施行見込みについて 事務局職員の退職について |
| 平成 26. 12. 4 (第 21 回) | <ul style="list-style-type: none"> 評議員の交代について 平成 27 年度予算編成の考え方について 第 41 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について 審査委員会委員長の指名と委員の委嘱について 技術開発審査委員会専門委員の委嘱について |
| 平成 27. 2. 13 (第 22 回) | <ul style="list-style-type: none"> 第 12 回、13 回評議員会の開催について 平成 26 年度助成の実施について 平成 27 年度事業計画と収支予算の編成について 平成 27 年度資産運用計画について 印章規程の改正について 放送文化基金賞審査委員会委員の委嘱について 事務局職員の採用について |

イ 評議員会

| 開催年月日 | 主 な 議 事 |
|--------------------------|--|
| 平成 26. 6. 13 (第 10 回) | <ul style="list-style-type: none"> 平成 25 年度事業報告および決算について 第 40 回「放送文化基金賞」選考結果 評議員の選任について 役員の選任について 評議員・役員の退任について |
| 平成 26. 12. 4 (第 11 回) | <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度収支見通しおよび平成 27 年度予算編成方針について 事業の執行状況について |
| 平成 27. 3. 12 (第 12 回) | <ul style="list-style-type: none"> 平成 27 年度事業計画と収支予算の編成について 平成 26 年度助成の実施について 事業の執行状況について |

Ⅲ 付属明細書（資料 1～4）

平成26年度

助 成 対 象 一 覧

技術開発

| テーマ | 申請者 | 助成金額(万円) |
|-------------------------------------|--|----------|
| 赤外線イメージセンサのための超高感度光検出器の開発 | 豊田工業大学大学院工学研究科 嘱託研究員 大森 雅登 | 294 |
| 超広帯域マルチバンドカメラの開発 | 超広帯域マルチバンドカメラ研究会 代表 山内 泰樹(山形大学大学院 教授) | 300 |
| 高速伝送を実現する水平・垂直偏波共用メタマテリアルアンテナ | 東京農工大学大学院先端電気電子部門 准教授 有馬 卓司 | 113 |
| 放送・通信連携における干渉検出アルゴリズム構成法の開発 | 日本工業大学電気電子工学科 准教授 平栗 健史 | 300 |
| 波形選択性を用いた地上波デジタル放送システムの高効率化 | 名古屋工業大学大学院工学研究科 助教 安在 大祐 | 300 |
| 画素毎の動き推定による高精度な動き補償予測技術の開発 | 東京理科大学理工学部 教授 松田 一朗 | 170 |
| 超高精細映像放送・配信のための符号化技術の研究 | 明治大学総合数理学部 専任教授 鹿喰 善明 | 230 |
| 三次元音響の高音質家庭再生方式の研究 | 富山大学理工学研究部 教授 安藤 彰男 | 212 |
| コンピュータ支援による外国人名カタカナ表記の標準化・統一化 | 名古屋大学大学院工学研究科 教授 佐藤 理史 | 215 |
| テキストと映像の融合処理による SNS 投稿動画の評価・作成支援 | 東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授 山崎 俊彦 | 140 |
| 富士山山頂で行う雷放電・高高度放電発光現象の観測と映像データベース構築 | 東京学芸大学教育学部 准教授 鴨川 仁 | 200 |
| 聴覚障害者の豊かな読みの実現における視覚的プロソディの有効性 | 函館短期大学保育学科 准教授 植月 美希 | 208 |

計 12 件 2,682 万円

人文社会・文化

| | | |
|-------------------------------------|--|-----|
| 震災後のマスメディア一何が変わり、何を考えるべきか | 災害と報道研究会 代表 林 香里(東京大学大学院 教授) | 160 |
| 東日本大震災におけるテレビ報道と被災者に関する研究 | 「3.11 からメディアを考える」研究会 代表 志柿 浩一郎(東北大学大学院 博士研究員) | 135 |
| 映像アーカイブを利用した震災・原発事故報道に関する実証研究 | 東日本大震災とマスメディアの報道に関する研究プロジェクト 座長 大井 眞二(日本大学 教授) | 170 |
| 効果的な原子力発電所の事故対応に貢献する原発事故対応モデルの構築(2) | 東京大学生産技術研究所 助教 沼田 宗純 | 120 |
| 国際展開におけるコンテンツのローカライゼーション手法に関する研究 | コンテンツの国際展開研究会 代表 小泉 真理子(京都精華大学 専任講師) | 60 |
| 日本のテレビ番組国際展開の歴史の変遷に関する調査研究 | 佛教大学社会学部 准教授 大場 吾郎 | 30 |
| テレビドラマと戦争の記憶 ～NHK朝のテレビ小説の分析を中心に～ | 立命館大学産業社会学部 教授 増田 幸子 | 25 |
| 舞台芸術の放送化についての研究Ⅱ | 三重大学人文学部 准教授 田中 綾乃 | 45 |
| 外国人留学生における国際報道の受容とメディア利用の意識調査 | メディア・エスノグラフィー・プロジェクト 代表 中村 隆志(新潟大学 教授) | 50 |
| 高齢者のテレビ視聴とストレス・コーピングに関する研究 | 東京女子大学現代教養学部 研究員 中嶋 励子 | 80 |

| テーマ | 申請者 | 助成金額 (万円) |
|--|---|-----------|
| 越境メディアとオランダに居住するクルド人第2世代の活動 | 津田塾大学大学院国際関係学研究科 後期博士課程 寺本 めぐ美 | 70 |
| 1964年東京オリンピックの諸外国向け放送—アメリカの放送機関が果たした役割— | 島根大学法文学部 講師 浜田 幸絵 | 45 |
| 住宅のメディア・イメージと階層性に関する日中比較 | 早稲田大学アジア太平洋研究科 助手 周 倩 | 50 |
| アメリカにおける外国の国際テレビ放送：急増する放送局の動向とその影響 | 上智大学総合グローバル学部 教授 前嶋 和弘 | 100 |
| ドイツ放送負担金制度の現状と課題 | 大阪大学大学院高等司法研究科 教授 鈴木 秀美 | 55 |
| 民放黎明期における地方局の番組編成、広告についての分析 | 九州国際大学経済学部 教授 三輪 仁 | 60 |
| 過去50年の番組企画書・広報資料からのテレビ番組史研究 | 阪南大学国際コミュニケーション学部 教授 大野 茂 | 50 |
| 放送法改正経緯の調査研究 | 放送法改正経緯研究会 代表 長谷部 恭男 (早稲田大学大学院 教授) | 50 |
| 福祉社会形成期における肢体不自由児教育映像の研究 | 戦後障害児教育福祉実践記録史研究会 代表 玉村 公二彦 (奈良教育大学 教授) | 120 |
| 昭和20-40年代民放草創期放送資料の収集・整理とアーカイブ化に関する基礎的研究 | メディアと古典芸能研究会 代表 飯塚 恵理人 (椋山女学園大学 教授) | 70 |
| 関西の放送を創ってきた人物約45人の聞き取り調査と出版 | 関西民放クラブ「メディアウオッチング」 代表 辻 一郎 (関西民放クラブ 理事) | 110 |
| 脚本の教育活用の具体的試行と脚本家等放送関係者へのオーラルヒストリー展開 | 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 代表理事 山田 太一 | 220 |
| 実相寺のテレビ番組直筆資料等のデジタル化と聞き書き調査と公開 | 実相寺昭雄資料アーカイブとテレビ演出研究会 代表 中堀 正夫 (コダイ・グループ 代表) | 100 |
| 知的障害者を対象としたテレビ放送に関する調査・研究 | 知的障害者のためのテレビ放送研究会 代表 高田 英一 (NPO 法人 シーエス障害者放送統一機構 代表理事) | 150 |
| 伝統芸能「文楽」—地方公演2015— | 公益財団法人 文楽協会 理事長 山口 昌紀 | 100 |
| 放送の仕事を知ろう！ ～小中学生向け放送体験教室～ | 公益財団法人 放送番組センター 常務理事 松館 晃 | 115 |
| 平和構築のためのテレビ番組を使った草の根教育支援 | 一般財団法人 放送番組国際交流センター 専務理事 村神 昭 | 90 |
| IPTVによるアクセシビリティ向上のためのシンポジウム開催 | IPTV アクセシビリティコンソーシアム 設立委員 福島 孝博 (追手門学院大学 准教授) | 170 |
| 第21回アジア太平洋通信会議 (APCC2015) の開催 | APCC2015 実行委員会 組織委員長 梅比良 正弘 (茨城大学 教授) | 120 |
| 国際共同製作のための公開企画提案会議「Tokyo Docs 2015」の開催 | Tokyo Docs 実行委員会 委員長 天城 鞆彦 (NPO 法人 東京 TV フォーラム 理事長) | 160 |
| 「気候変動、太平洋島嶼国の放送が果たす役割」についてのワークショップをサモアにて開催 | 一般財団法人 NHK インターナショナル 理事長 原田 誠 | 100 |
| 国際共同制作「巨大都市」を通してのアジアの番組制作者の質的向上 | アジア太平洋放送連合 (ABU) 番組局長 紅粉 達広 | 140 |
| ドキュメンター：インドにおける女性制作者のためのワークショップ | ドキュメンタリー・リソース・イニシャティブ セクレタリー Majumdar Ishani | 50 |
| 地域ワークショップ：子ども向けウェブコンテンツ制作 | アジア太平洋放送開発機構 (AIBD) 所長 Yang Binyuan | 130 |

計 34 件 3,300 万円

(所属などは平成27年2月17日現在)

合計 46 件 5,982 万円

第40回「放送文化基金賞」受賞一覧

(資料2)

| 部 門 | 賞 (賞金) | 受 賞 者 | 番 組 名 ・ 業 績 | |
|-------------|---------------|---------------------------------------|---|---|
| 組 部 門 | テレビドキュメンタリー番組 | 最優秀賞(100万円) | NHK福岡放送局、NHK熊本放送局 | ETV特集 三池を抱きしめる女たち ～戦後最大の炭鉱事故から50年～ |
| | | 優秀賞(50万円) | BS-TBS | ドキュメンタリースペシャル フェンス ～分断された島・沖縄～ |
| | | (30万円) | 南日本放送 | どーんと鹿児島 千年後の森が見える 屋久島・山師の物語 |
| | | 奨励賞(30万円) | NHK | 戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか 第5回 福島 浜通り 原発と生きた町 |
| | | (30万円) | NHK広島放送局 | NHKスペシャル 終わりなき被爆との闘い ～被爆者と医師の68年～ |
| | テレビドラマ番組 | 最優秀賞(100万円) | テレビ朝日 | テレビ朝日開局55周年記念 山田太一ドラマスペシャル 「時は立ちどまらない」 |
| | | 優秀賞(50万円) | NHK | 連続テレビ小説 あまちゃん |
| | | (30万円) | TBSテレビ | 日曜劇場 半沢直樹 |
| | | 奨励賞(30万円) | 日本テレビ放送網 | 水曜ドラマ Woman |
| | テレビインタビュー番組 | 最優秀賞(100万円) | NHK | NHKスペシャル 足元の小宇宙 生命を見つめる植物写真家 |
| | | 優秀賞(50万円) | NHKエデュケーショナル、NHK | ケンボー先生と山田先生 ～辞書に人生を捧げた二人の男～ |
| | | 奨励賞(30万円) | 朝日放送 | 世界への挑戦状！行け！ジャパンプライド2 |
| | ラジオ番組 | 最優秀賞(100万円) | 北日本放送 | In My Life ～介護の仕事と ビートルズと～ |
| | | 優秀賞(50万円) | 北日本放送 | 西村雅彦監督ラジオドラマ 「立山に想ふ 遠き日の約束」 |
| | | 奨励賞(30万円) | NHK名古屋放送局 | FMシアター 金魚の恋、五十五年の夢 |
| | | 演技賞(20万円) | 堺 雅人 | 「半沢直樹」 |
| | | 演技賞(20万円) | 満島ひかり | 「Woman」 |
| | | 制作賞(20万円) | 熊谷博子 | 「三池を抱きしめる女たち ～戦後最大の炭鉱事故から50年～」 |
| | | 演出賞(20万円) | 三角恭子 水沼真澄 | 「足元の小宇宙 生命を見つめる植物写真家」 |
| | | 出演者賞(20万円) | 川手照子 | 「In My Life ～介護の仕事と ビートルズと～」 |
| 個人・グループ部門 | 放送文化 | (30万円) | 板垣淑子 (NHK大型企画開発センター チーフ・プロデューサー) | 現代社会が抱える課題を浮き彫りにした、優れたテレビドキュメンタリーの制作 |
| | | (30万円) | 南海放送 ドキュメンタリー映画「X年後」制作・自主上映グループ | ‘棄てられた被ばく’を調査報道するドキュメンタリー映画「X年後」制作及び自主上映活動 |
| | | (30万円) | シリーズ「ふるさとの記憶」プロジェクト (NHK盛岡放送局、「失われた街」模型 復元プロジェクト) | 津波で失われた被災地の営みを、かつての街並みを復元した模型 や住民が語る記憶、発掘した映像で甦らせた |
| | 放送技術 | (30万円) | 加藤克行 (TBSテレビ) | 「Ω FINDER (オメガファインダー)」の開発 |
| (30万円) | | ロケサポ開発チーム 代表 木村好信 (フジテレビジョン) | 遠隔取材支援システム「ロケーションサポーター」の開発 | |
| (30万円) | | 「スカイマップ」開発グループ 代表 中島 孝 (NHK) | ランドマーク表示システム「スカイマップ」の開発 | |
| 特別賞 | | ラウドネス導入プロジェクト (日本民間放送連盟、NHK、電波産業会) | 日本のテレビ放送におけるラウドネス管理の導入 | |

*番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

他の賞への参加結果について

1. 2014年ABU番組コンクール

<テレビ7部門とラジオ6部門に32の国・地域から292番組が参加>

※ 放送文化基金は、ラジオとテレビのドラマ部門のスポンサー

表彰日 平成26年10月27日

場 所 中国・マカオ

受賞作品 ○ラジオ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000ドル)

『FMシアター 金魚の恋、五十五年の夢』

(NHK/日本)

○テレビ部門 ドラマ番組 (賞金 2,000ドル)

『Redfern Now, Babe in Arms(Series2)』

(ABCオーストラリア放送協会/オーストラリア)

2. 第41回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

<企画部門への参加は32機関、43企画>

表彰日 平成26年10月21日

場 所 NHK放送センター1階101スタジオ

受賞企画 『ミーアキャットの冒険』

(賞金 8,000ドル)

グリニス・ビアケス・カパ氏

(ナミビア放送協会/ナミビア)

※ 企画は番組化し、ナミビア放送協会で放送される予定。また、平成27年開催の「日本賞」コンクール開催期間中に上映される予定

3-1. 第39回創作テレビドラマ大賞

<応募総数881編から、大賞1編、佳作2編が決定>

表彰日 平成26年11月4日

場 所 アルカディア市ヶ谷

大賞作品 『川瀬(かわうそ)』 山下真和

3-2. 第43回創作ラジオドラマ大賞

<応募総数236編から、佳作3編が決定>

表彰日 平成27年3月23日

場 所 市ヶ谷・日本放送作家協会会議室

大賞作品 該当なし

公益財団法人 放送文化基金
役員、評議員、審査委員 一覧

(資料4)

○ 役員

| | | |
|----------|-------|---------------|
| 理事長(非常勤) | 塩野 宏 | 東京大学名誉教授 |
| 理事(非常勤) | 末松 安晴 | 高柳記念財団理事長 |
| 理事(非常勤) | 藤井 宏昭 | 国際交流基金顧問 |
| 理事(非常勤) | 箕浦 康子 | お茶の水女子大学名誉教授 |
| 理事(非常勤) | 大石 芳野 | 写真家、日本大学客員教授 |
| 専務理事(常勤) | 崎元 利樹 | 前日本放送協会大阪放送局長 |
| 監事(非常勤) | 清水 孝雄 | TBS社友 |
| 監事(非常勤) | 竹村 範之 | 日本放送協会経営企画局長 |

○ 評議員

| | |
|------------|--------------------------|
| 青木 隆典 | 日本民間放送連盟常務理事 |
| 青木 保 | 国立新美術館館長 |
| 池辺 晋一郎 | 作曲家 |
| 板野 裕爾 | 日本放送協会専務理事 |
| 上田 良一 | 日本放送協会経営委員会委員 |
| 小田島 雄志 | 東京大学名誉教授 |
| 音 好 宏 | 上智大学教授 |
| 加藤 剛 | 俳優 |
| マーシャ・クラッカー | 聖心女子大学教授 |
| 今野 勉 | 演出家、脚本家 |
| 鈴木 幸一 | インターネットイニシアティブ代表取締役会長CEO |
| 高島 肇久 | 日本国際放送特別専門委員 |
| 田中 優子 | 法政大学総長 |
| 遠山 敦子 | トヨタ財団理事長 |
| 長尾 真 | 前国立国会図書館長 |
| 中村 桂子 | JT生命誌研究館館長 |
| 西條 温 | 日本ケーブルテレビ連盟理事長 |
| 羽鳥 光俊 | 東京大学名誉教授 |
| 濱田 純一 | 東京大学総長 |
| 福地 茂雄 | 新国立劇場顧問 |
| 向井 千秋 | 宇宙航空研究開発機構特任参与 |
| 籾井 勝人 | 日本放送協会会長 |

○ 助成 審査委員

| | | | |
|------|------|-------|--------------|
| 技術開発 | 委員長／ | 今井 秀樹 | 東京大学名誉教授 |
| | 委員／ | 伊東 晋 | 東京理科大学教授 |
| | | 白井 克彦 | 放送大学学園理事長 |
| | | 豊中 俊榮 | TBSテクス取締役会長 |
| | | 浜田 泰人 | 日本放送協会理事・技師長 |

| | | | |
|---------|-------|----------|------------|
| 人文社会・文化 | 委員長／ | 濱田 純一 | 東京大学総長 |
| | 委員／ | 安藤 裕康 | 国際交流基金理事長 |
| | | 黒崎 政男 | 東京女子大学教授 |
| | | 佐藤 卓己 | 京都大学大学院准教授 |
| | | 下川 雅也 | 日本放送協会理事 |
| | 白石 さや | 東京大学名誉教授 | |

○ 放送文化基金賞 審査委員

| | | |
|------|--------|--------------|
| 委員長／ | 吉田 喜重 | 映画監督 |
| 委員／ | 青木 隆典 | 日本民間放送連盟常務理事 |
| | 河合祥一郎 | 東京大学大学院教授 |
| | 木田 幸紀 | 日本放送協会理事 |
| | 金田一秀穂 | 杏林大学教授 |
| | 河野 尚行 | 放送批評家 |
| | 羽鳥 光俊 | 東京大学名誉教授 |
| | 堀川とんこう | 演出家 |

(平成27年3月31日)